**木彫り被り物・アマビエ**

住職角田慈成は、「お寺に猫のフィギュアを置くことは、人々に仏様を知ってもらうための方法です。」と説明する。その思いから、彼は多くの日本の芸術家、漫画家、イラストレーター、写真家、彫刻家と協力し、仏教の教えをより多くの人々に伝えてきた。中でも人気なのが、木彫りの猫のお面（木彫りかぶり物）である。

この兜のようなお面は、山口県を拠点に活動する "チェーンソーアーティスト "林隆雄氏が木から削り出したものである。林氏は、全日本チェーンソーアートコンテストで3回、全米オープンチェーンソーアートコンテストで2回優勝するなど、国内外で活躍している。見た目よりも驚くほど軽いマスクは、ぜひ一度試着してみてほしい。

コロナウイルスの流行に対応して、隆雄氏は伝説の三本足の人魚、アマビエのチェーンソー彫刻を制作した。アマビエは豊作の時や恐ろしい病気の時に海から出てくると言われている。当然のことながら猫の顔をしており、すぐに「ねこびえ」の愛称で呼ばれるようになった。瞬く間にテレビやネットで話題になった。御朱印も人気のお土産となっている。